

優先度評価表 <危険箇所マップ作成やハード、セミハード対策の検討時の参考>

・危険箇所における対策の実施にあたっては、水路底と路面等との高低差、水路幅、水の流れ(流速)を要素とした「転落リスク」と、視認性や住宅の立地状況等を要素とした「周辺環境」を総合的に評価し、3段階(A,B,C)の対策優先度を設定して、地域の状況に応じた整備を推進することが効果的かつ効率的です。

□優先度指標の考え方

評価	内容
優先度A	当該水路におけるハード、セミハードの対策を優先的に検討、実施するとともに、ソフト対策を並行して行う。
優先度B	現場状況に応じて、ハード、セミハード対策を順次検討、実施するとともに、ソフト対策を並行して行う。
優先度C	主として、ソフト対策を行い、現場状況に応じて、必要なハード、セミハード対策を行う。

□優先度評価表

評価分類	番号	評価項目	高 ← リスク → 低			評価
			3	2	1	
転落リスク	(1)	水路底と隣接する路面等との高さ	高い (目安:2.0m以上)	高い (目安:1.0m以上)	低い (目安:1.0m未満)	
	(2)	水路幅	—	広い (目安:1.0m以上)	狭い (目安:1.0m未満)	
	(3)	水の流れ	—	速い (目安:1.0m/s以上)	ゆるやか (目安:1.0m/s未満)	
	評価点(合計)		(1)(2)(3)の点数の合計			
	転落リスク評価		A評価:7点、B評価4点~6点、C評価3点			
評価分類	番号	評価項目	高 ← リスク → 低			評価
			3	2	1	
周辺環境※	(4)	水路沿いの視認性、足もと状況	視認性が悪い。または、足もとが極めて狭く凹凸も大きい。	視認性に乏しい。または、足もとが狭く、凹凸もある。	視認性、足もとの安全性に問題はない。	
	(5)	高齢者・児童等が歩行・自転車走行する頻度	高い	普通	低い	
	(6)	住宅地や周辺施設等の考慮	考慮の必要性大	考慮の必要性あり	考慮なし	
	評価点(合計)		(4)(5)(6)の点数の合計			
	周辺環境評価		A評価:7点以上、B評価:4~6点、C評価3点以下			
優先度評価		優先度評価判定表により評価を行う。				
特記事項 (現地の事情で考慮した点など)						

※周辺環境の項目については、現地の事情により異なるので、昼夜の状況、季節の状況、気象の状況などを総合的に勘案して評価することが望ましい。



◇優先度評価判定表

		転落リスク		
		A	B	C
周辺環境	A	A	A	B
	B	B	B	B
	C	B	C	C